

2019年度

京都ヒューマン賞

と き：2019年6月4日(火) 11:00-13:00

と ころ：リーガロイヤルホテル京都



2019年度 京都ヒューマン賞 受賞者・団体紹介



社会福祉法人リガーレ暮らしの架け橋 理事長
地域密着型総合ケアセンターきたおおじ 代表

やまだ ひろし
山田 尋志 氏

1981年、老人福祉施設に勤務し、当時の高齢者の置かれている環境や対応に課題を感じ、改善の工夫を重ねてきた。2000年、自分のライフスタイルに応じた暮らしが継続できる高齢者福祉施設の建設に挑戦し、国の高齢者施設制度を変えるモデルとなった。その後、入居者の声から、可能な限り施設ではなく自宅で住み続けることの大切さを再認識し、京都府、京都市との協議によりモデル事業を展開。これは利用者の自宅に近い拠点で、24時間365日の暮らしを支える小規模多機能型サービスの先駆けとなり、現在では京都市内だけでも同様の事業所が100か所に及ぶ業界全体の取り組みとなっている。また、NPO法人介護人材キャリア開発機構を設立し、高齢者が望む生活を実現する

ために必要なサポートを考え実践できる専門的介護人材の創出・育成に努めている。さらに、中小法人に共通するサービスの展開や人材育成などの課題を解決するために、社会福祉法人グループ・リガーレを設立し、福祉経営の基盤強化をめざしている。



- 1981年 老人福祉施設に勤務
- 1999年 京都市老人福祉施設協議会会長に就任
- 2000年 個室ユニット型特養のモデルとなる施設を開設
- 2004年 小規模多機能型居宅介護事業所を開設。京都府、京都市による最初の「ふれあいホーム」指定を受け、2006年度の国の制度の先駆けとなる
- 2006年 NPO法人介護人材キャリア開発機構を設立。同法人の理事長として、厚労省福祉人材検討会委員を務める
- 2010年 社会福祉法人グループ「リガーレ」を設立。グループ本部「きたおおじ」を2012年に開設
- 2011年 京都地域密着型サービス事業所協議会を設立し、会長に就任
- 2012年 京都府福祉人材育成認証制度推進会議議長に就任
- 2014年 京都市高齢者住まい・生活支援事業をスタートし、現在約80名の80、90代を中心とする一人暮らし高齢者の住まい確保を実現している。
- 2017年 社会福祉法人「リガーレ暮らしの架け橋」を設立



社会福祉法人えのき会

所在地:京都市伏見区桃山町山ノ下44-8
理事長:古川 末子 氏
経 歴:1988年 9月 榎の会
2000年 2月 NPO法人えのき
2005年12月 社会福祉法人えのき会

1988年頃、養護学校卒業後の重い障害のある人の暮らし方は、施設に入所するか、親が終生、自宅で介護するしかなかった。地域の中であたり前の暮らしが送れることを願う親たちが集まり、任意団体「榎の会」を結成した。ボランティアの力を借りて、宿泊訓練やレクリエーションも行いながら、定期的に学習会を開催。障害福祉制度や他府県の福祉の状況、施設見学も行なった。「重い障害があっても地域であたり前に暮らす」。そのために必要なことは何かについて話し合いを重ねながら活動を続けた。宿泊訓練、日中活動、レスパイトケア、ヘルパーの派遣、送迎サービス、入浴・夕食サービスなど、必要なサービスを創り出して提供を始めたことが、後の地域での暮らしに

繋がっていった。活動を通して、重い障害のある人も必要な支援と環境があれば、それぞれの自立に向けて、プライドを持って生きていけることが確認できたこと。そして、そばで見守ってきた母親たちにも、自らの生き方を顧みるゆとりができたことは、大きな成果である。



- 1985年 伏見区榎町の借家に養護学校保護者等が集まり、活動を開始
- 1988年 養護学校保護者に呼びかけ、会員を募集。「榎の会」発足 宿泊訓練を始める: 重度障害者の将来の自立に向けてこの間も活動を継続。借家を4回転居 (~1997年)
- 1997年 伏見区桃山に拠点となる「榎の家」を建築 活動が認められ、「京都市レスパイトサービス事業」を受託
- 2000年 NPO法人格を取得
- 2003年 居宅介護事業として、伏見区「えのき」、上京区「めい」を開所
- 2005年 社会福祉法人えのき会を設立
- 2007年 ショートステイ事業を開始
- 2009年 重度障害者が通所する「榎の家」の新棟を建築 重度障害者のグループホーム「ハックベリー」を開所
- 2010年 重症心身障害者通園事業B型「みずぎ」を開所
- 2011年 「みずぎ」から生活介護事業「榎の家」に移行
- 2013年 生活介護「さくらの家」、グループホーム「ベル」を開所
- 2016年 放課後等デイ「そらまめ」を開所



はだしのコンサート実行委員会

所在地:京都府京丹後市網野町掛津74-1 まつづる内
委員長:丸田 敏樹 氏
設 立:2000年4月

1994年の第1回はだしのコンサートから、「貴方の拾ったゴミが入場券」を合言葉に、琴引浜に漂着したゴミを拾い集め、その種類や量を調査するビーチクリーンアップ活動とコンサートをメインイベントとした「手作りの環境啓発コンサート」を開催している。この間、琴引浜は「医療廃棄物の投棄」「ナホトカ号重油流出事故」「松くい虫による後背林の損傷」などの被害に見舞われたが、地域の人たちの努力によって「全国初の禁煙ビーチ」(1999年)や、海浜後背から海中までの立体空間を同時指定した国の「天然記念物」(2007年指定)となるなど、自他ともに白砂青松の保全に取り組む村として認められてきた。はだしのコンサートは、地元小学校や高校とも連携し、子どもたちが

琴引浜のクリーンアップなどの企画運営やイベントの運営を手伝っており、環境意識の育成に繋がっている。はだしのコンサートでは毎回、動植物保護、地球温暖化防止、リサイクル推進、海洋汚染防止、森林保全などのテーマを掲げ、環境保全や保護の重要性を広く国内外に発信してきたが、26回目となる2019年は、昨年と同じく「マイクロプラスチックゴミ」にフォーカスを当てて開催する。



- 1994年 第1回はだしのコンサートが京都府主催でスタート
- 1997年 タンカー・ナホトカ号重油流出事故により、琴引浜にも大量漂着。以後、重油回収作業に追われる(琴引浜における作業従事者数約12,700人、回収した重油約250トン)
- 2000年 第7回から掛津区(琴引浜)主体の開催となる
- 2001年 第8回、国際ビーチクリーンアップの漂着物調査を網野高校ボランティア同好会の協力を得て実施
- 2002年 教育施設「琴引浜鳴き砂文化館」が開館
- 2003年 第10回、国際ビーチクリーンアップの漂着物調査を東山高校地学部との協力を得て実施
- 2007年 琴引浜が国の天然記念物および名勝に指定
- 2013年 第20回で掛津区主体としての開催が終了
- 2014年 第21回より、地元宿泊施設をはじめとする有志が主体となり開催(協賛:京丹後市、協力:掛津区他)
- 2017年 第24回、「20年目のありがとう。~ナホトカ号重油事故からの歩み~」
- 2018年 第25回、「Save the Earth! ~マイクロプラスチックから地球を救え!~」と題し、その存在と脅威を琴引浜から世界へ発信(2016~2018年、京都オムロン地域協力基金から助成を受けた事業として開催)

受賞者・団体一覧

1986年3月

■ヒューマン大賞

伊東 祐純 様 子供たちの健全育成とユネスコ会などの活動
奥田 東 様 福祉思想の啓発活動
松井 かつゑ 様 中国留学生援助活動と両国の友好に貢献

1986年度

■ヒューマン大賞

嶋田 啓一郎 様 社会福祉の理論体系の確立に貢献
吉村 孫三郎 様 日中友好の架け橋的存在として活躍

1987年度

■ヒューマン大賞

亀山 千代 様 老人福祉活動
嶋津 孝真 様 精神薄弱児者の生活指導
湯浅 祐一 様 府民スポーツの振興に貢献

1988年度

■ヒューマン大賞

朝隈 善郎 様 陸上競技の指導者として貢献
立石 一真 様 心身障害者の雇用促進、社会福祉の向上に貢献
武間 富貴 様 幼児教育・女子教育の進歩向上に尽力

1989年度

■ヒューマン大賞

ジュリアス・マリー・バーガー 様 肢体不自由児及び重症心身障害児の福祉向上に貢献

四手井 綱英 様 自然保護の取組み、環境重視の啓発運動に貢献
八木 清 様 ポーイスカウト運動と子供たちの健全育成に貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

大塚 全教 様 障害のある人に絵を通して生きる喜びを与える活動
荻野 忠夫 様 民生委員として地域福祉の向上に貢献
藤本 守 様 点字奉仕活動を続け障害のある人の自立に貢献
(社)京都いのちの電話 様 24時間体制での電話相談によるボランティア活動

1990年度

■ヒューマン大賞

川村 つや 様 障害児者のノーマライゼーションに貢献
栗林 四郎 様 全国身障者スポーツ大会に貢献
中川 正文 様 京都の児童文化と児童福祉の風土作りに貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

桑原 秀雄 様 盲導犬の普及に貢献
田中 伊太郎 様 民生児童委員として地域福祉の向上に貢献
守袖 三郎 様 教育者として難聴児の教育と生活指導に貢献

1991年度

■ヒューマン大賞

岩井 郁子 様 ガールスカウト運動を通じ感性豊かな子女の育成に貢献
芝田 徳造 様 障害者スポーツの普及、指導に貢献
園部 道 様 乳幼児の健全育成に創意工夫など児童福祉事業の運営

■ヒューマンかざぐるま賞

池見 孝治 様 老人福祉運動の先駆者として老人福祉組織の基盤整備の充実
石津 利幸 様 点友会会長 田島 ノブ 様商工会議所婦人部の結成など
地域福祉や女性の地位向上に貢献
京都こんには会 様 高齢者に生きがいと愛とふれあいを与えるボランティア活動

1992年度

■ヒューマン大賞

岡本 由鶴子 様 ボランティア活動を通じ、地域福祉の向上に貢献
高井 隆秀 様 高齢化社会に対応する福祉施策の基盤を確立
藤田 静夫 様 スポーツ界のリーダーとして体育振興に貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

赤松 マサエ 様 精神障害児者の自立と生活指導に尽力
山本 徳治 様 自治会長として地域社会活動・福祉の風土作りに貢献
寮育キャンプリーダーグループ 様
京都障害児福祉協会寮育キャンプでのボランティア育成・指導

1993年度

■ヒューマン大賞

蟹江 廣吉 様 身体障害者福祉法による援護施策の改定に尽力
高島 雅行 様 児童、制度の保健教育の普及に貢献
馬庭 京子 様 誕生日ありがとう運動を通じ障害者の自立の援助

■ヒューマンかざぐるま賞

岡 たね 様 母子寡婦家庭の文化的生活の安定と婦人の地位向上
寺澤 武雄 様 アイバンクでの献眼登録、角膜提供に貢献
京都SGGクラブ 様 善意通訳にて京都の歴史文化の理解を深める活動
京都中国料理厨师会球磨会 様 長年の老人ホーム・養護施設での中国料理の出張

1994年度

■ヒューマン大賞

大塚 達雄 様 京都障害児福祉協会を独立発展、福祉事業の中核組織に育成
信ヶ原 良文 様 児童、青少年の健全育成等、全国に先駆け夜間保育を開設
蜂須賀 弘久 様 体育教育を通じて府民の体位、健康の向上に貢献
山本 公子 様 全国初「国際女子留学センター」での留学生に多大の援助

■ヒューマンかざぐるま賞

中澤 真琴 様 府盲人協会の音楽部の設立で視覚障害者福祉の増進
平田 哲 様 アジアにおける国際福祉の先駆的取り組みに貢献
京都おもちゃライブラリー連絡協議会 様
障害児の発達援助や相互理解、融合に貢献
京都河川美化団体連合会 様 河川美化運動を通じ市民参加の町作り運動に貢献

1995年度

■ヒューマン大賞

高橋 美智子 様 京都のわらべ歌の収集、採譜等地域文化の保存に尽力
長橋 榮一 様 障害者の自立生活運動のリーダーとして活動
樋口 和彦 様 ホスピス運動や高齢者のクオリティ・オブ・ライフ向上に尽力

■ヒューマンかざぐるま賞

秋田 幸代 様 PTA組織の活性化、女性の地位向上に貢献
柴橋 悦子 様 共同作業所での重度身体障害者の自立と生活指導に貢献
高石 ともや 様 日本各地で青少年健全育成、福祉文化の向上に貢献
堀川福祉奉仕団 様 老人福祉運動の先駆的ボランティアとして高齢者福祉に貢献

1996年度

■ヒューマン大賞

畦田 正雄 様 孤児院イメージを払拭、「平安徳義会」を名実兼備の施設に育成
金井 秀子 様 女性の地位向上、男女共同参画社会の実現に先導的役割
清水 榮 様 広島ピキニ環礁調査が核兵器・戦争廃絶の呼びかけの端緒となる

■ヒューマンかざぐるま賞

永田 哲也 様 知的障害者施設での先駆的な散髪ボランティア活動
早狩 実紀 様 連続10回都道府県対抗女子駅伝の代表選手
KBSカタツムリ大作戦 様
交通事故撲滅キャンペーンやかたつむり基金で交通遺児奨学金に貢献

1997年度

■ヒューマン大賞

榊田 八重子 様 古武道としての薙刀をスポーツ的性格をもたすべく腐心
中西 美世 様 京都商工会議所婦人会組織化に奔走、地域繁栄と福祉、文化増進に寄与

早川 一光 様 地域医療、老人福祉に尽力

■ヒューマンかざぐるま賞

あまんきみこ 様 童話を通じて子ども達の人間性の健全育成などに貢献
京都BBS連盟 様 少年の非行問題に取り組み、青少年健全育成に貢献
(社)京都ボランティア協会 様
ボランティア活動の普及拠点として心豊かな社会を実現

1998年度

■ヒューマン大賞

内山 茂生 様 地域スポーツの振興と障害者スポーツの振興に尽力
小倉 美津子 様 女性スポーツ団体の組織化と振興に尽力
廣瀬 義彦 様 京都中央少年少女合唱隊を設立

■ヒューマンかざぐるま賞

玉中 修二 様 視覚障害者の福祉向上に貢献
京都アマチュアマジシャンズクラブ 様
趣味を生かしたボランティア活動で社会福祉活動
重度身体障害者マリアの会 様
生活、作業、精神指導を行い重度身体障害者の自立に貢献

1999年度

■ヒューマン大賞

伊藤 さかえ 様 主婦連創立と同時に入会し、実績を積まれた地域の活動家
柴谷 篤弘 様 科学者と釈迦の関係に着目し環境問題を高い見地から見据えてリード

■ヒューマンかざぐるま賞

関 五郎 様 40年の長きにわたり身体障害者福祉の充実に尽力
西村 ゆり 様 音楽会での障害者のための点字プログラムの作成
(社)呆け老人をかかえる家族の会 様 老人痴呆症の介護者の支援に尽力

2001年度

■ヒューマン大賞

浅岡 美恵 様 京都議定書の採択に気候ネットワークの代表として活躍
大谷 藤郎 様 ハンセン病患者、回復者の人権擁護に取り組む
大谷 實 様 犯罪の被害者、家族の人権を守り、経済的、精神的支援で活躍

■ヒューマンかざぐるま賞

(社)京都府建築士会女性部会 様
UDIによる環境に調和した町づくりで女性の地位向上
だん王友の会 様 半世紀にわたりユニークな活動を通じて青少年健全育成
堀川と堀川通を美しくする会 様
河川美化による世界遺産の保全や新しい町作り運動

2002年度

■ヒューマン大賞

上田 正昭 様 人権問題の擁護活動や研究、社会貢献で活躍
佐藤 登久代 様 JDA代表としてカンボジアにおいて地雷除去、学校建設、村づくり
高田 英一 様 国際舞台で聴覚障害者の福祉向上や人権擁護に活躍

■ヒューマンかざぐるま賞

介助犬をそだてる会 様 介助犬の育成インフラ作りと普及
梶 寿美子 様 自ら障害を克服し、障害者に希望を与え障害者の社会参加に貢献
橋詰 良彦 様 森林セミナーなどボランティア活動で自然環境保全に貢献

2003年度

■ヒューマン大賞

嘉田 由紀子 様 世界子ども水フォーラム開催で世界の子どもの交流に貢献
黒田 隆男 様 精神障害者の受皿としての共同作業所作り運動に取り組む
吉岡 壽恵 様 長く児童や幼児の教育に携わり「躰」を重視した幼児教育を実践

■ヒューマンかざぐるま賞

京都自然教室 様 自然観察を通して自然の豊かさを感じる感性を持つ子ども達を育成
ザイラーご夫妻 様 日吉町かやぶき音楽堂で地域文化の活性化や伝統生活保護に貢献
吉松 時義 様 車椅子駅伝で障害者を勇気づけ、心のバリアフリーを訴える

2004年度

■ヒューマン大賞

上平 貢 様 青少年の健全育成と京都市の芸術文化振興に貢献
平田 真貴子 様 京都いのちの電話開設で自殺予防に尽力
和田 恵美子 様 衣装デザイン分野で活躍され、女性の地位向上に貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

京都家庭文庫地域文庫連絡会 様
母親たちによる家庭文庫活動で青少年の健全育成に貢献
京都ライトハウス 様 視覚障害者福祉の向上に貢献
京のアジェンダ21フォーラム 様 「京のアジェンダ21」の実践母体として活躍

2005年度

■ヒューマン大賞

小野 了代 様 25年間にわたり、市民の立場でヨルダン、アフガニスタン、イランなどで災害や紛争後の緊急支援に始まる自立支援活動で貢献

藤本 文明 様 ベトナムにおける障害児教育、福祉支援に貢献
湯川 スミ 様 世界連邦運動で会長として地球平和、紛争解消を世界にアピール

■ヒューマンかざぐるま賞

京都市手話学習会「みみずく」 様
日本初の手話サークルとして、聴覚障害者との交流活動などで福祉向上に貢献
京都市要約筆記サークル「かたつむり」 様
要約筆記などの活動で聴覚障害者の福祉向上に貢献

里山ネットワーク世屋 様

過疎が進む宮津市世屋で、伝承技術の継承保存や棚田でのコメ作りで地域再生に貢献

2006年度

■ヒューマン大賞

北村 よしゑ 様 「オリーブの会」共同作業所を開設し、精神障害を持つ人々を支援
竹下 義樹 様 日本で最初の全盲の弁護士として、視覚障害者、社会的弱者を支援
徳川 輝尚 様 わが国初の「身体障害者療護施設こひつじの苑」を開設、療護施設利用者の生活の質向上や施設従事者の勤務条件改善に尽力

■ヒューマンかざぐるま賞

NPO法人丹波マンガン記念館 様
マンガン鉱山における在日コリアン、被差別部落出身者らの労働の実態や歴史などの資料展示で差別や人権問題の啓発活動に尽力
人形劇団京芸 様 昭和24年の創立以来、一貫して小・中学校の視覚教育として学校公演を継続
ユース21京都 様 京都市成人の日式典や全国車いす駅伝競走大会で移送、介助、式典のボランティア活動

受賞者・団体一覧

2007年度

■ヒューマン大賞

- 玄武 淑子 様 女性として初めて京都市老人クラブ連合会会長に就任、京都市の老人クラブの育成と老人福祉の推進に貢献
- 中川 恵次 様 「菟道明星園養護老人ホーム」の理事長に長く就任し、宇治の老人福祉、地域文化や町づくりに貢献
- 吉永 太市 様 知的障害者施設の指導者として、粘土を使った造形表現指導とその作品展覧会の開催

■ヒューマンかざぐるま賞

- 株式会社ウイメンズカウンセリング京都 様
カウンセリング、各種講座の開設などの活動で、性暴力やDV被害女性を救済支援
- 社会福祉法人 京都ハチの会 様
授産施設の自主運営を始め、京都市内で初の精神障害者福祉ホームで地域医療に貢献
- 京都子育てネットワーク 様
京滋の子育てサークルのネットワークとして、地域の「子育て、親育ち」でできる仲間作りを応援

2008年度

■ヒューマン大賞

- 芹澤 栄之 様 50年の長きに亘り、献身的に母子支援に取り組む
- 所 久雄 様 35年に亘り、福祉にかかる人材の育成、新しい福祉の研究、障害者の自立を目指した地域福祉の向上に取り組む
- 中畔 都舎子 様 30年以上の地域婦人会活動を通じて、男女共同参画社会の推進に貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

- 春日住民福祉協議会 様
自治体活動をベースに、自治・福祉・防災の三位一体の事業で、高齢者・障害者・子どもたちが安全で安心して暮らせる春日の町づくりに取り組む
- 京都子どもセンター 様
のびやかで豊かな子ども時代を過ごすことの出来る社会環境づくりに貢献
- 京都障害者スポーツ振興会 様
障害のある人々にスポーツの素晴らしさや楽しさを伝え、障害者スポーツの輪を拡大

2009年度

■ヒューマン大賞

- 岩本 富雄 様 環境カウンセラーとして地球環境整備に貢献
- 高見 国生 様 認知症の当事者と家族の支援活動、啓発普及運動を積極的に推進
- 人見 君子 様 障害児教育の草分けとして61年にわたって障害者支援を継続

■ヒューマンかざぐるま賞

- 京都市里親会 様
家庭に恵まれない児童の福祉向上のため、43年間に亘り地道な活動を維持継続
- NGO緑の協力隊・関西澤井隊 様
アジア各国で砂漠緑化の活動を行い、苗木7790本を植林し地球温暖化防止に貢献
- NPOリボン・京都 様
開発途上国の生活困窮者に対して洋裁等の職業訓練を行い、経済的自立の促進や貧困の撲滅に貢献

2010年度

■ヒューマン大賞

- 谷垣 雄三 様 西アフリカ・ニジェールで30年にわたる医療活動を私費や京都・峰山の同級生の寄付金で運営を継続
- 宮井 久美子 様 京都ボランティア協会において中心的役割と使命を果たす
- 友久 久雄 様 子供から老人までを対象とした人間味溢れる幅広い活動で、地域社会福祉に大いに貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

- 竹文化振興協会 様
「竹」に関する文化・芸術、産業開発、研究・教育の全般について啓蒙活動を展開
- 朗読ボランティア「さえざり会」 様
ボランティア活動として視覚障害者にとって役立つ暮らしの情報発信や活動の援助に貢献
- 唐橋社会福祉協議会 様
住民自治に根ざし地域住民の誰もが安心して暮らせる街づくりに貢献

2011年度

■ヒューマン大賞

- 玉川 和子 様 京都府民の健康の保持増進及び疾病予防に大いに貢献
- 野木 武 様 京丹後市で環境保全型農業やユニークな技術導入により地球温暖化対策を実践
- 森 昇 様 私財を投じ心身障害者の就労モデルを構築し、共生社会を構築

■ヒューマンかざぐるま賞

- 公益財団法人 関西盲導犬協会 様
発足から30年以上にわたり質の良い盲導犬の育成・盲導犬指導員の養成に貢献
- 認定NPO法人 きょうとグリーンファンド 様
「省エネ・節電・自然エネルギーの普及」目的で多くの「おひさま発電所」を設置し、地域の環境学習に貢献
- 修学院第二学区社会福祉協議会 様
高齢者介護予防などの福祉活動、中学生とのアルミ缶収集の資金援助活動などを実践

2012年度

■ヒューマン大賞

- 武田 道子 様 京都市域で福祉・教育・文化など多方面で奉仕活動に貢献
- 細井 恵美子 様 高齢者福祉施設及び在宅介護の包括的な取り組みに貢献
- 吉田 秀子 様 女性の社会参加支援、子育て応援、元気づくりの3つ事業を柱に展開

■ヒューマンかざぐるま賞

- 特定非営利活動法人 京都難病連 様
難病を抱える患者や家族を支える相談事業などを展開し、交流会の開催・サポーター養成の研修会開催などの活動を実践
- 城陽点字サークル たんぼぼ 様
視覚障がい者の生活、文化、社会参加に不可欠な情報提供に貢献し、点字楽譜の先駆けとして料理レシピなど多彩な点字活動を実践
- 特定非営利活動法人 山科醍醐子どものひろば 様
山科醍醐地区を中心に、子ども達の発育環境の充実に取り組み、特に生活貧困問題への取り組みを実践

2013年度

■ヒューマン大賞

- 加藤 博史 様 大学で福祉教育に携わりながら、地域福祉実践活動も重視し、京都におけるボランティア活動振興の基盤づくりに貢献
- 谷岡 孝子 様 病院ボランティアコーディネーターとして、患者と病院、ボランティア間の調整役を務める
- 野上 芳彦 様 終戦直後から長年にわたり、知的障害児の福祉や教育問題について実践し、社会福祉関連の要職を歴任し、京都の福祉向上の先頭に立って貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

- 特定非営利活動法人 環境市民 様
日本の環境NPOの草分け的存在として、持続可能で豊かな社会・生活の実現に貢献
- 社団法人 京都精神保健福祉推進家族会連合会 様
50年に亘り、精神障害者への偏見をなくし、障害者の生活の自立や社会参加に貢献

社会福祉法人 るんびに苑 様

京都府下で唯一の情緒障害児短期治療施設として、虐待や育児放棄などにより発達に障害をきたし、家庭や社会から疎外されていた児童・生徒の育て直し

2014年度

■ヒューマン大賞

- 小國 英夫 様 在宅介護高齢者のために、「生涯地域居住」を掲げて、地域に密着した独創的な活動を展開
- 櫛田 匠 様 乳児や児童、高齢者のための施設を運営し、京都府北部で人々が幸福であることを目指して先頭に立って活動
- 高木 徳子 様 自閉症研究に関する第一人者として、自閉症児のためにフィールドワークに重点をおいた活動を実践

■ヒューマンかざぐるま賞

- 特定非営利活動法人 コンシューマーズ京都 様
水銀を含む蛍光灯の適正処理・再資源化を求める各種活動を継続
- 特定非営利活動法人 テラルネッサンス 様
主に紛争地域において、地雷除去、子ども兵の社会復帰、紛争被害者の自立など幅広い支援活動を行い、多くの課題解決に貢献
- 社会福祉法人 ゆりかご保育園 様
40年以上にわたり、難病を抱えた障がい児など多くの障がい児を受け入れ、健常児と一緒に保育することで、「みんな一緒に育つ保育」を実践

2015年度

■ヒューマン大賞

- 出店 知之 様 障がいのある子どもを兄弟にもつ健常児を対象とする自然体験型キャンプの「冒険キャンプ」を現場指導・責任者として30年にわたって実施
- 松井 三郎 様 京都府民の水源地である琵琶湖の水質改善に貢献。その成果や経験を国際的に普及させ、途上国ではエコロジカル・サニテーションを普及させている
- 森田 美千代 様 1983年に日本で初めて障がい者シンクロナイズドスイミングに取り組み、1992年からは京都で全国的な大会を開催し、身障者シンクロの一層の普及に尽力

■ヒューマンかざぐるま賞

- 大山崎竹林ボランティア 様
安全な伐採作業マニュアルの作成など大山崎町の荒廃竹林(竹藪)の整備に貢献
- 特定非営利活動法人 子育て支援コミュニティ おふいすパワーアップ 様
子どもを持つ幸せを感じられる親を増やすために子育てに関する多くの情報を発信
- フィールドソサイエティ 様
寺林や里山といった身近なフィールドで環境学習活動を継続

2016年度

■ヒューマン大賞

- 石倉 紘子 様 自死遺族サポートチーム「こころのカフェ きょうと」を設立し、家族や身近な人を自死自殺で失った遺族を支援する活動に注力
- 佐々木 和子 様 「京都ダウン症児を育てる親の会」(トライアングル)の初代会長として、親が孤立せず、安心して楽しく子育てができるよう尽力
- 深尾 昌峰 様 京都における初めての中間支援組織「きょうとNPOセンター」や「公益財団法人京都地域創造基金」を設立するなど、市民活動団体やボランティア団体の活動基盤の構築に貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

- 認定NPO法人 アンビジャス 様
人と動物が共生するやさしい社会の実現を目指し、高齢者施設やホスピスなど病院施設へのドッグセラピー活動を通じて、こころと身体を癒すための活動を展開

特定非営利活動法人 地域環境デザイン研究所 ecotone 様

祭やイベントを対象に、使い捨て容器を繰り返し使える「リユース食器」に置き換える仕組みを全国に先駆けて構築し、大幅なごみ削減を実現

にこにこトマト 様
京大病院小児科に入院中の子どもたちと付添いのご家族のために「楽しく豊かな時間」を届けるため、平日のほぼ毎日、バラエティーに富んだ「遊び」を提供

2017年度

■ヒューマン大賞

- 桑原 教修 様 長年にわたり児童福祉分野のリーダーとして、社会的養護を必要とする子どもたちに寄り添い、よりよい育ちと自立のための活動に注力
- 新藤 崇代 様 障害のある子どもたちが、音楽(ピアノ等の楽器演奏や歌)を通して楽しい時間を過ごし、心身ともに安定して過ごせるよう、音楽指導を20年に亘って実践

■ヒューマンかざぐるま賞

- 認定NPO法人アクセス共生社会をめざす地球市民の会 様
フィリピンに貧しい地域で子どもに教育を、女性に仕事を提供し、住民たちで課題解決する取り組みを目指して活動を展開
- 特定非営利活動法人 京都DARC 様
薬物を止めたいけど止められないという依存症に陥った人たちの回復を支える拠りどころ、居場所作りを目的に活動を展開
- 京都YMCAこおろぎ 様・京都YMCA長岡こおろぎ 様
朗読ボランティアグループとして約30年間に亘り、視覚障害者(リスナー)に様々な情報を録音・編集して発信

2018年度

■京都ヒューマン賞

- 鷺巣 典代 様 「認知症の人にやさしい地域づくり」に関する活動を続け、日本の認知症施策や「家族の会」など認知症関係団体の活動について発信
- 京都YWCA・APT 様
26年間に亘り、外国にルーツのある方が日本で暮らす中で直面する問題について、多言語電話相談などで支援
- 特定非営利活動法人 八幡たけくらぶ 様
男山周辺の里山の環境を保全するため、竹林の整備や子ども向けの竹細工教室を開催

京都オムロン地域協力基金について

社会貢献活動を行っている皆様を応援しています。

公益財団法人京都オムロン協力基金は、京都府内において、地域の社会福祉、青少年の健全育成、男女共同参画の推進、生活環境・地球環境の整備を対象分野に、顕彰事業や助成事業を行い、地域社会の発展に寄与することを目指しています。



公益財団法人 京都オムロン地域協力基金

所在地：京都市下京区油小路通塩小路下る
TEL:075-343-7211 / FAX:075-365-7234

理事長：立石 文雄 (オムロン株式会社 取締役会長)

沿革：1984年3月 財団法人伏見信用地域協力基金として設立
2000年12月 財団法人京都みやこ地域協力基金を経て、
財団法人京都オムロン地域協力基金として承継
2011年10月 公益財団法人へ移行

基本財産：2億3,500万円 (財団法人京都みやこ地域協力基金から承継)

特定資産：オムロン株式会社株式 20万株 (立石信雄氏から寄贈)

ホームページ：http://www.omron.co.jp/about/social/fund/

■ 顕彰事業

オムロン基金の事業対象分野を中心として、広く社会貢献活動をされ、顕著な功績のあった京都と関わりのある個人や団体・グループを「京都ヒューマン賞」として顕彰しています。顕彰を契機にさらに活動が活性化され、また活動の芽が育まれることも期待しています。

外部有識者による当基金の選考委員会において選考審査を行い、理事会において最終決定します。



2018年度 京都ヒューマン賞贈呈式

■ 助成事業

京都府内において、社会貢献活動をされている団体や個人に対して、イベントを開催される際の費用支援として、助成金を提供しています。

環境保全活動のために必要な機材・備品の購入費用に対し、また、経済的に困窮している女性たちが、社会的課題の解決に向けて交流するための経費の一部も助成しています。

2018年度からは、「オムロン基金 子ども食堂助成制度」を創設し、子ども食堂の開設および運営費用の一部を助成しています。

留意事項

- 原則として、イベントについては助成金額はイベント事業予算の50%以内です。
- 施設の改修工事等の資産的要素となるものには助成しません。
- 助成対象となるイベント終了後、原則1ヶ月以内に、事業報告書および収支報告書、領収書のコピーを提出いただきます。

※詳しくはホームページの「助成申請の手引き」をご参照ください。http://www.omron.co.jp/about/social/fund/

助成テーマ例



けいはんな科学体験フェスティバル



パラアーティスティックスイミングフェスティバル